新潟県民主医療機関連合会ニュース Vol. 173

新潟民医連に加盟する法人・事業所の取り組みを紹介します。 2024年3月13日（水）
発行者：宮野　大

能登半島地震
日本薬剤師会の呼びかけで支援

～薬剤師としてできることは小さなことの積み重ね、それでも必要とされることは沢山ある。できるだけ早期からの介入、そして息の長い対応が必要～

新潟メディカルプランの田邉香織薬剤師が支援に参加しました。
支援の様子をお伝えします

【どんな支援でしたか】

2/1～5で、日本薬剤師会の呼びかけで、震災支援に参加しました。

羽咋の国立青少年の家を拠点に、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、門前町の地域に分かれての活動で、新潟第4班は、毎日5:30に出発して輪島市の避難所で活動を行いました。

薬剤師として災害に携われる事が多岐に渡ってますが、今回は以下3点を重点に実施しました。

①災害処方箋、常用薬確認表の確実な配薬
②避難所巡回での薬剤ニーズ把握、公衆衛生的な観点から手洗いの徹底、次亜塩素酸の活用、CO2測定、換気
③医療資源が少ない中でのOTC医薬品の適正使用

また更なる工夫で被災地へ関われる事はまだまだあると感じました。

DMAT、JMAT、TMAT、日赤チームの先生方、看護チーム、ロジチーム、行政の方々からの情報も我々の活動にとって貴重なので毎日のミーティングにはチーム代表者が必ず参加しました。

【支援の中で思い出に残ったこと・今後の課題等】

高齢化率の高い地域柄、避難所でも高齢者が多く、お会いした方の中には**「ベットから動けず、新聞を読む以外にやることもないし、自宅の片付けにも行けないし、、、」**と仰っていました。

また、避難所で動かない方に、お天気の日はお散歩でも、とお話したところ**「散歩しても気が滅入るからね」とのことで、変わり果てた街を見るのも辛いこと**だと感じました。

時間が経つ程、生活の支援とメンタルのフォローが重要と感じました。

今後のところでは、金沢の1.5次避難所の医療ニーズの高い方々の薬の聞き取りや処方依頼などの新しいニーズも出てきているとのことで、**災害支援も状況に応じて対応を変化させていく必要があります**。

医療人として、できるだけ多くの職員からも参加していただけると、今後の成長にもつながると思います。一人一人が被災者に寄り添って義援金等も含めできることに取り組みましょう。

生々しい火災の跡

避難所での
Co2測定

東京都水道局の簡易の自動水栓手洗いは便利！全避難所へ設置してほしい。

※このニュースは、田邉さんが法人に提出した報告書をもとに作成しました。